

尿中 L-FABP 測定の有用性の検討

○唐川遥輔 梅澤理枝 山田奈美恵 立石典子 平野繁治 上野芳人 荻野良郎(玄ヶ堂君津病院)

糖尿病腎症における尿中アルブミンの測定は早期腎症の指標として有用なマーカーである。今回、生化学汎用分析機で測定可能となった尿中 L-FABP(以下 L-FABP)を含め、尿中アルブミン、HbA1c、eGFR、との関係について検討した。

方法：対象は当院外来通院中の 2 型糖尿病患者 200 例である。対照尿は非糖尿病、非腎疾患及び非蛋白尿を呈した 46 例である。検査項目は尿中アルブミン、L-FABP、eGFR で日立ラボスペクト 006 にて測定した。HbA1c は HPLC 法で測定した。また、眼底検査による出血との関係を検討した。

結果：①尿アルブミンによるステージ分類別に、L-FABP 値を比較した。対照尿 ($1.7 \pm 1.26 \mu\text{g/gCr}$) に比べステージ 1(腎症前期)の群で有意 ($p < 0.05$) に高値であったのに対し、尿アルブミンでは差は認められなかった。②eGFR の相関では L-FABP 値は $\text{eGFR}30\text{ml/min}/1.73 \text{m}^2$ から上昇と共に漸次減少したのに対し、尿アルブミンも減少傾向を示したが大きくばらついた。③HbA1c 値とは L-FABP、尿アルブミン共に相関は得られなかった。④眼底との比較では、L-FABP 値が眼底出血(-)群 111 例 ($3.7 \pm 4.0 \mu\text{g/gCr}$) に対し出血(+)群 28 例 ($12.1 \pm 30.3 \mu\text{g/gCr}$) で有意に高値 ($p < 0.01$) であった。

考察：L-FABP 値は正常尿とステージ 1 群に有意に差が認められ、尿アルブミン値より早期に上昇する可能性が示唆された。また、eGFR と L-FABP は同様な変化を示した。眼底出血を示した群で L-FABP 値が高値を示し、最小血管合併症との詳細な検討の必要性が示唆された。

結語：糖尿病腎症のマーカーとして、新たに L-FABP の有用性が示唆された。また、L-FABP は糖尿病網膜症との関係が示唆された。本法は汎用分析機で測定可能であり有用性が高いと考えられる。